第6回　栃木・福島建物視察会に参加して

江藤祐子
TOTO株式会社
営業情報部
日本建築美術工芸協会法人会員

3.11以降、まちづくりや建築への意識も変わってきていますが、今年の見学先は栃木・福島地区となりました。今回は太平洋側の沿岸部ではなく、秋深まった福島県を中心に内陸部を視察し、さまざまな年代のさまざまな建築家の作品を目にすることとなりました。11月11日小雨模様の新宿より29名の旅は始まりました。

まずは群馬県みどり市の「富広美術館」。

日本建築学会賞の作品賞受賞のaat＋ヨコミゾマコト建築設計事務所が設計の美術館です。

'やさしさにいつでも逢える富広美術館' とパンフレットにサブタイトルがついているように画家・星野富広氏の水彩画を生かす、曲面の壁、低い照度の展示室、品質を保つ収蔵庫があり、建築デザインの美しさと共に、美術品へのきめ細やかな配慮を感じることができました。

次に奥日光中禅寺湖畔に佇むアントニン・レーモンド設計の「(旧)イタリア大使館別荘」。駐車場から15分静寂の中を歩くと、昭和3年に建築されたスギの皮の外装という、自然素材をふんだんに使った木造の西洋建築が現れました。室内の内装・照明・家具は当時そのままと思われる改修が施され、とても居心地の良い時間をコーヒー片手に味わいました。

そして宿は裏磐梯高原ホテル。竹中工務店設計で福島県建築文化賞を受賞し、磐梯山のふもとの弥六沼につながるリゾートホテル。昭和33年開業という歴史が訪れる者に安らぎを与えてくれます。　夜の交流懇親会は宴会場で終わらず、部屋に戻ってもにぎやかに楽しく続きました。

翌日は待望の晴れとなり、外観の壮大さに驚き、全員で記念撮影を行いました。

翌12日は、まずは会津若松市の栄螺堂(さざえどう)。今まで見たことの無い螺旋構造と、サザエに似た外観は、江戸時代後期の特異な建築様式の仏堂です。

二重らせん構造になっており、上り下りは別の回廊で、いずれも階段ではなくスロープのような上り坂・下り坂が続きます。現代から歴史の中へ入り込んだ気分で貴重な建築を見学しました。

昼食をはさんで午後は福島県郡山市立美術館。設計は柳澤孝彦+TAK建築・都市計画研究所で、BCS建築賞日本芸術院賞建築部門などを受賞した、丘陵地と青空と一体となった、横広がりの美術館です。3.11の震災では建物自体の損傷は比較的軽微だったものの、休館は余儀なくされ、7月16日に復旧・再オープンとなったそうです。案内してくださった学芸員の方は、苦労話ではなく、お客様の安全・美術品の保管・地域との共生行事を語られ、美術館とは何か、を知ることができました。

旅の最後は栃木県小山市の「録(ろく)ミュージアム」。

塚田録氏のコレクションを紹介する私設美術館で、若手建築家の中村拓志＆NAP建築設計事務所の話題作品でした。

林の中に有機的な包み込むようなフォルムと、作品を浮き上がらせる優しい照明は夜が訪れた旅の終わりには、とてもくつろげる空間でした。

今回は美術とつながる建築を視察するという、とても贅沢な２日間でした。東北の静かな豊かな自然の中の存在感ある建築は、これからもずっと東北を訪れて、建築のすばらしさを誰かに話していきたいと思わせるものでした。

最後に、今回の建築視察会に際し、施設・建築案内を快くしてくださった現地の皆さま、楽しく過ごせた当協会の皆さまに心より感謝いたします。